大学院リサイタルシリーズ⑦

~晩秋の語り~

2022 年 10 月 22 日(土)15:00 開演(14:40 開場)

洗足学園音楽大学 シルバーマウンテン 1F

～出演者～

石井優菜

見原さやか

⚠新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力くだ さい。

・大声や対面での会話はお控えください。

・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。

・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから 混雑を避けて入退場してください。

・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。

・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。 ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場 合がございます。

主催:洗足学園音楽大学・大学院

～Program～

1. 石井 優菜 (フルート)

井上 友美 (ピアノ)

S.プロコフィエフ / フルート・ソナタ ニ長調 作品 94

Sergei Prokofiev (1891～1953) / Flute Sonata D-dur Op.94

第 1 楽章 モデラート

第 2 楽章 スケルツォ プレスト

第 3 楽章 アンダンテ

第 4 楽章 アレグロ コンブリオ

2.見原 さやか（ピアノ）

K.シマノフスキ / ピアノ・ソナタ第 1 番 ハ短調 作品 8 より

Karol Szymanowski(1882～1937) / Sonata fortepianowa Nr.1 c-moll Op.8

第 1 楽章 アレグロ

第 2 楽章 アダージョ

第 3 楽章 メヌエット

～Program Note～

S.プロコフィエフ / フルートソナタ ニ長調 作品 94

プロコフィエフ・セルゲイ・セルゲーエヴィチは１８９１年に現在のウクライナ 東部に生まれ、１９５３年に脳出血のため亡くなった。作曲家であり、ピアニス ト、指揮者として活躍していた。主な作品は「ピアノ協奏曲第３番」「交響曲第５ 番」バレエ音楽「ロメオとジュリエット」などがある。プロコフィエフは幼少期 から神童ぶりを発揮し、９歳という若さでオペラを作曲していたという。そんな プロコフィエフが作曲したフルートソナタニ長調作は第２次世界大戦中の１９４ ３年、プロコフィエフが疎開していたペルミで完成した曲である。モスクワで初 演されたものの、あまり評判はよくなくフルーティストたちから忘れ去られてし まっていたが、現代ではフルーティストの中では有名で重要なレパートリーとな っている。当時評判がよくなかったのは第２次世界大戦中であったことが関係し ていたと考えられている。しかしフルートソナタの初演を聴いていたヴァイオリ ニスト、ダヴィット・オイストラフがプロコフィエフ本人にヴァイオリンソナタ への改作を強く勧め、最初は戸惑ったプロコフィエフだったが１９４４年にフル ートソナタから少し音型を変えヴァイオリンソナタが完成したフルートソナタと しては最初の曲だったが、ヴァイオリンソナタはすでに１番が完成していたため 、「ヴァイオリンソナタ第２番」となり、評判も上がっていき、結果的にフルー トパートに逆輸入をしていきフルートソナタにも手が加えられ現代ではフルート 、ヴァイオリンどちらも頻繁に演奏される名曲となった。第１楽章の出だしは少 し憂鬱な雰囲気も感じられるが戦時中の軍隊のような音型があったりその時代の 表情が描かれている。第２楽章はスケルツォは楽しくはねまわっているような印 象、第３楽章は少しゆったりしているがはっきりした意志があるような雰囲気、 そして終楽章はリズミックで活き活きとし、終わる。プロコフィエフのピアノソ ナタ第７番と同じく戦争ソナタ、あるいは鋼鉄の歩みと呼んでもいいくらいだと 言われている、その時代の雰囲気がとてもよく伝わる美しく強いプロコフィエフ らしい作品となっている。

K.シマノフスキ / ピアノ・ソナタ第 1 番 ハ短調 作品 8 より 第 1,2,3 楽章

カロル・マチエイ・シマノフスキ(1882〜1937)は 18 世紀のポーランド分割によっ て 19 世紀当時はポーランドからロシアに割譲されており現在はウクライナに属する キエフ県チギリン郡ティモショフカで、ポーランドの貴族の子として誕生したポー ランドの作曲家です。時代が変動する中で自身の作風を変えながら、4 つの交響曲 、2 つのヴァイオリン協奏曲、2 つの弦楽四重奏曲、2 つのオペラ、ピアノ曲や歌曲 を残しました。本日はその作品の中でピアノソナタ第 1 番ハ短調作品 8 を演奏致し ます。このピアノソナタはシマノフスキの初期の作品の一つであり、1904 年に作曲 されました。作曲当時、シマノフスキは 1901 年から 1904 年にかけて在籍していた ワルシャワ音楽院でジグムント・ノスコフスキの個人教授を受けており、最初の 3 楽章は、《9 つの前奏曲 作品 1》よりも以前から着手していました。第 4 楽章は当 初はロンドとして作曲されていましたが、1904 年にフーガと改めて作曲されました 。1904 年の 3 年後、1907 年に行われた若きポーランドの第 2 回のコンサートで初 演、さらに 3 年後の 1910 年にはウクライナ西部の都市のリヴィウで行われたショ パン生誕 100 周年記念コンクールに応募し、第 1 位を獲得しました。 楽曲の構成は 、ソナタ形式のアレグロで始まり、アダージョ、メヌエット、トリオと続き、フー ガ的なフィナーレを迎えるという、伝統的な 4 楽章形式を踏襲した作品となってい ます。ショパンとスクリャービンの影響を受けており、その要素が随所に現れてい ます。第 1 楽章の主題を他の楽章で繰り返し再現させることで、後期ロマン派の循 環形式的な工夫が凝らされています。

第 1 楽章

アレグロ・モデラート。ハ短調。ソナタ形式。 主題、以降部ともに 4 小節構造で進 行していき、属七や属九といったドミナントの連続使用することで調性を曖昧にし ていく要素はスクリャービンに、細かなハーフタッチで弾くようなパッセージを取
り入れている要素はショパンに似ているように思えます。 第 2 主題は、メノ・モッ
ソ、アモローソ。第 2 楽章の主題と関連しています。

第 2 楽章

アダージョ。変イ長調。三部形式。 冒頭の主題は第 1 楽章の第 2 主題に由来してい ます。 中間部は、ピウ・モッソ。アジタートになり嬰ト短調に転調します。

第 3 楽章

メヌエット。変ホ長調。 コモド（気楽に）と指示されているように、麗らかな曲で す。変ホ長調から転調し、ロ長調のトリオは第 1 楽章の第 2 主題と関連しています 。

～Profile～

石井優菜

東京都出身。14 歳よりフルートを始める。国立音楽大学附属高等学校を経て、国立 音楽大学卒業。卒業時に卒業演奏会、第 48 回フルートデビューリサイタル出演。国 立音楽大学東京同調会新人演奏会推薦。 第 24 回万里の長城杯国際音楽コンクール アンサンブル部一般 A 部門最高位受賞。 現在洗足学園音楽大学大学院音楽研究科 2 年在学中。 これまでにフルートを菅井春恵、大友太郎、野原千代の各氏に師事。

見原さやか

東京都出身、8 歳からピアノを始める。 都立総合芸術高等学校を卒業後、洗足学園音楽大学音楽学部に入学。 アンサンブル・スタディクラスに 3 年次より在籍し卒業。

ピアノを飯野明日香、山岸真由美、室内楽を新居由佳梨に師事。

2021 年に洗足大学院・藝大大学院交流コンサートに出演。

2022 年、10 月 9 日に開催された大学院コンチェルトの夕べに出演。

室内楽等の演奏活動、後進の指導も行っている。 現在、洗足学園音楽大学院器楽専攻 ピアノコース 2 年在籍。